

2024年度 佐賀西部コロニー 事業実績報告書（案）

1. 法人運営に関するもの

昨年度から着工してきた進入路が完成し、5月に開通式を行った。また7月には施設整備国庫補助金の採択の内示があり、競争入札参加資格審査委員会の設置、9月には入札会を実施し、10月には鹿島市中島建設㈱と正式に工事請負契約書の締結をする。（契約額 992,970 千円）その後11月5日に法人役員が見守る中、地鎮祭を執り行い、多良岳福祉園新築工事に向け本格的な工事の着工をする。特に多良岳福祉園では、新たな建物における支援を想定し、様々な課題の検討を進め、2週間毎に開催される定例会議において検討結果を報告し、建築に反映している。

12月6日村井公道氏が逝去された。法人創設者である村井会長を偲び、12月9日ご親族と法人による合同葬儀を執り行い、最後のお別れをする。心よりご冥福をお祈りする。

昆虫の里、多良岳福祉園で、新型コロナウイルスによるクラスターが発生したが、ご家族のご協力を頂きながら、早期の事業復旧をすることができた。

処遇改善等加算の制度見直しにより3つの加算が統合された為、今後の支給基準について検討を進めてきたが、本年度の特定加算相当分については、現規程に基づき、対象職員に対して3月に特別一時金の支給を行っている。

2. 福祉事業活動

本年度4月に障害福祉サービス等報酬改定があり、就労継続支援 B 型事業に於いては、平均工賃の算定方式の見直しにより増額傾向、生活介護や施設入所支援及び共同生活援助事業については減額傾向となったが、各施設とも法令を遵守し、適正な事業運営に努めた。

また毎年酷暑の中での全日本カブト虫相撲大会の開催について、従来の熱中症対策では課題があったが、太良町より会場内の空調機設置に係るリース費用を助成をしていただき、安全に大会を運営することができた。また本大会の様子は、太良町観光協会の Youtube から広く発信していただいている。

運動会や勤労感謝の会については、本年度も施設合同開催はできなかったが、各施設の創意工夫で様々な活動を行い、利用者様に喜んでいただいている。

3. 就労事業活動

就労支援事業においては、佐賀西部コロニー収穫祭や佐賀少年刑務所、障害者月間中の太良町役場での販売会など就労活動の活発化に取り組んだ。

2024年度 昆虫の里 事業実績報告書（案）

1. 総括事項

(1) 施設運営について

2024年度は報酬改定により就労継続支援B型事業所においては、プラス改定になり福祉事業収入は増収となった。就労事業においては2024SAGA国スポ・全障スポ関連の受注が増え、大会開催に向けた広告関連・競技用具などの製作を受注するなど売り上げも伸びた。法人イベントにおいては「全日本カブト虫相撲大会・佐賀西部コロニー収穫祭」を開催し、利用者様はスタッフとして参加し盛会に終えた。また「佐賀さいこうフェス」「佐賀矯正展」などの各販売イベントへも出店するなど脱コロナにより利用者様の社会参加の機会が戻ってきた。

利用者様の処遇に関しては個別支援会議に本人参加した「意思決定支援」が加わり、今まで以上に意向を重視し職員も意思疎通を図りながら、ひとりひとりにあった細かな支援を行った。

職員の資質向上については、本年も社協のWeb研修を主体に様々な研修を受講した。またOJTとして「虐待防止・身体拘束」や「BCP」、「感染症対策」等の各種委員会において意見討論を行い、障害福祉サービス事業所の職員としての知識向上に努めた。

(2) 施設利用者様の豊かな人格形成

脱コロナ以降も感染症対策が続き、衛生対策の訓練を行いながら販売活動など、顧客と交流を行った。全日本カブト虫相撲大会や収穫祭においては進行係や販売係、会場整理係など役割を担ってもらい社会参加を行うことが出来た。またアビリンピック大会に「挑戦」し入賞するなど「技術屋」として可能性を高めることができた。

(3) 快適な質の高い施設づくり

利用者様個々に合わせた支援を目指し、佐賀西部ホームと連携して支援にあたった。また偶数月第4土曜日を環境整備の日として施設内の環境美化に取り組んだ。

(4) 働き甲斐のある施設づくり

朝礼時は毎日ラジオ体操を実施し、皆で「私の目標」を復唱し、「やればできる！」を合言葉に明るく元気に笑顔で一日のスタートができるように取組んだ。作業時には安全配慮と整理整頓を心がけ、けがのない安全で明るい作業場の環境づくりに努めた。

2. 福祉事業活動

利用者様は6月より1名入所、8月に1名退所し、定員35名に対し現員34名である。障害福祉サービス事業収入は、87,550千円と昨年より8,348千円の増収となった。施設整備については事務用PC、厨房の食器消毒保管庫及び製氷機導入など設備更新を図った。就労事業では印刷部門の転写プレス機、木工部門の半自動梱包機を更新した。また木工部門では年度末に外装板用パレット製作事業の契約を受けて、新たに高圧コンプレッサー2台を固定資産として取得した。施設工事として屋根修繕・雨漏り塗装工事などの施設工事を、指導訓練の一環として木工班で行った。

3. 就労支援事業活動

今年度の木工部門は国スポ・全障スポの競技用具製作や認定こども園家具製作など、特注品を主体に多種多様な商品づくりを行った。園芸部門は海水みかんが裏年であったが贈答用みかんを中心に販売額を伸ばした。また春菊、トウモロコシ、かぼちゃなど新たに取り組んだ野菜類も売り上げに貢献できた。加工品では黒ニンニク、湯がきタケノコが売れ行き好調で過去最高の売り上げを確保できた。印刷部門については国スポ・全障スポの広報関連品など、様々な依頼が増えるなど販売額増になった。また肥前大浦駅、道の駅太良のトイレ清掃業務に加え、1月より多良駅西口（多良岳口）清掃が加わり、佐賀NOKの自動車部品組立も加え年間通して確実な収入源となった。就労支援事業収入は前年度より1,198千円減の38,243千円の決算となった。工賃については、昨年度比1,198円増額の一人当月平均40,096円を支給し2024年度の目標工賃は達成した。

なお部門別の実績については、下記のとおりである。

	2024年度 (千円)	2023年度 (千円)	差額 (千円)	前年度比 (%)
木工部門収入	14,166	15,325	▲1,156	92.4
園芸部門収入	13,689	13,589	100	100.7
印刷部門収入	10,387	11,142	▲755	93.2
合 計	38,243	40,057	▲1,814	95.5
一人当月工賃	(円/月) 40,096	(円/月) 38,898	1,198	103.1

※施設外就労は木工・印刷部門の利用者様で取り組んでおります。

2024年度 佐賀西部ホーム 事業実績報告書（案）

1. 総括事項

(1) グループホーム運営について

2024年度は脱コロナから「元の生活様式へ」移行をテーマに取り組んだ。窮屈な生活をお願いして4年が経過し、マスク・手指消毒を始めとした衛生対策を実施すれば安心した元の生活が送れると確信しました。しかし7月に利用者様2名職員2名のコロナ感染し直ぐに収束したもの、翌月の8月上旬に新たに発症し利用者様12名、職員2名が感染して最終的に「クラスター」となった。BCPに基づいて、感染拡大防止策を行ったが、利用者様の行動特性把握が甘く感染は拡大し、結果的に第2ホーム全員が感染してしまった。反省を踏まえ、利用者様自身で衛生対策の訓練の実施や感染経路となった感染者の部屋の中での過ごし方やトイレの使用時の経路など改善が必須であり、今後も注視すべき課題である。

また本年度も生活の充実を図る目的で各棟に分かれてクッキング教室の実施、9月には梨狩りや5年ぶりのプロ野球観戦を実施した。更に定期的にカラオケ会やウォーキングを行うなど、日々の楽しみを増やし満足度を高めることができた。防災訓練については本年も6月に防火避難訓練及び水防法に基づいて大浦校区の指定避難場所まで移動訓練を実施した。

職員の資質向上については、社協のWeb研修を主体に様々な研修を受講した。事業所内研修については昆虫の里合同で「虐待防止・身体拘束」「感染症予防」「BCP」の研修や訓練を行い、障害福祉サービス事業所の職員としての知識向上に努めた。

(2) グループホーム利用者様の豊かな人格形成

今年度も太良町からの振興券を活用し食事会や、刺身などが入った特製お弁当をお取寄せした。また定期的買い物支援など余暇活動を計画する事で、地域社会と交流を図りながら皆さんが、生活の充実が図れる支援に努めた。

(3) 快適な質の高いグループホームづくり

昆虫の里との連携を図りながら、施設環境整備の向上を目指し、奇数月第4土曜日を環境整備の日としてホーム内外の清掃を行い、整理整頓の行き届いたホームづくりを行った。また細かい部分については定期的に支援員にて清掃及び衛生対策を行った。

(4) 喜び溢れるグループホームづくり

安心して生活できる生活環境の向上を図り、活力ある明るいホームづくりに努めた。月一回は互助会会議を通じて利用者の皆さんの意見を尊重し、自主的に取り組まれることは見守り、出来ないところを支援するように取り組んだ。

2. 福祉事業活動

本年度の利用者数は6月に1名入所、8月に1名退所し、定員30名に対し現員27名である。福祉事業活動収入は50,036千円と前年より、198千円の減収となった。なお利用者様の支援については、個別支援計画や意思決定支援を重視し、生活支援員・世話人が主体となり本人の目標や意思を尊重して支援にあたった。

2024年度 多良岳福祉園 事業実績報告書（案）

1. 総括事項

(1) 施設運営について

本年度は、令和6年度障害福祉サービス等報酬改定の年であった。その改定内容は、生活介護サービスの基本報酬が日額方式からサービス提供時間方式に変更され、生活介護サービスと施設入所支援を提供する多良岳福祉園においては、8時間以上のサービス提供を行っても、7時間までしか報酬が認められないなど、事業運営には厳しい内容となった。このような状況であっても利用者様が参加する個別支援会議の実施をはじめ、定期的な虐待防止委員会の開催、更には業務継続計画の策定及び見直しなど、法令遵守に努め、適正な事業運営を進めていった。こうした取り組みの中で2月28日から3月16日までにわたる新型コロナウイルスのクラスター発生により、事業の縮小を余儀なくされたが、業務継続計画に基づく対応で、早期の復旧を行うことができた。

施設整備においては、7月2日に念願であった令和6年度施設整備国庫補助金の内示の通知をいただき、9月6日には建設業者の入札会、そして10月23日には落札者である中島建設㈱（鹿島市）と3回にわたる検討を経て、工事請負契約書の締結を行い、工事着工を行っている。なお竣工は、2025年9月30日を予定している。

地域交流においては、本年度も白石警察署から相談を受け、障がいのある方への理解促進に向け協力を行い、利用者様に対しては佐賀県消防音楽隊による演奏会を開催していただいた。更に太良町で開催された全国障害者スポーツ大会のソフトボール競技の応援にも参加することができた。また佐賀県障害者月間の取り組みとして太良町及び町内障害福祉事業所とともに太良町役場前での販売会や太良町社会福祉協議会と地元ボランティアが行っているご縁クラブ活動への参加、そして太良高校生のボランティアの受入れも行った。

(2) 施設利用者の豊かな人格形成

昨年に引き続き本年度も2班に分かれて日帰り旅行を実施した。長崎県多比良港からフェリーで熊本県へ渡り、熊本城を眺めながらの食事会やバスの中でのカラオケ、また12月にはいこいの村長崎（長崎県諫早市）でのクリスマス会など、利用者様と職員の親睦を深めることができた。

(3) 快適な質の高い施設づくり

施設整備国庫補助金の採択を受け、新しい建物での支援を想定し、主任以上の役職員と定期的に検討会を実施した。検討結果は、工事の定例会議でも報告をし、建築にも反映をしている。またこうした検討の中で、今後の多良岳福祉園の日中活動についても話し合いを行い、これまでの法人の歩みを大事にしつつも、利用者様への適切な支援の在り方について考え、海水さつまいもを次年度より昆虫の里へ移管、また来年度途中に菌床しいたけ栽培の事業廃止を決定し、今後の事業に向けての検討や準備も進めた。

また、町立太良病院からの訪問リハビリ指導や管理栄養者が中心とした栄養ケアマネージメントの実施など、利用者様の健康管理にも取り組んだ。

虐待防止の取り組みとしては、虐待防止委員会で企画し、本年度もグループワークを取り入れた職員研修会の開催や虐待チェックリストの実施、更に第4回多良岳福祉園虐待防止標語コンテストを開催した。本年度は、48作品の応募の中から次の作品が入賞し、開かれた施設と利用者様の権利擁護に努めることができた。

○第4回多良岳福祉園虐待防止コンテスト

最優秀賞 1作品「みんなで作ろう 新しい施設 明るい未来」
優秀賞 2作品「笑顔をかわす挨拶は 心も体も ぽっかぽっか」
「幸せを 分かち合えれば 心つながる」

(4) 働き甲斐のある施設づくり

農産部門においては、これまで低迷していた菌床しいたけの品質と生産量の向上により、売上向上へとつながった。また園芸部門は、海水さつまいもの昆虫の里への移管を想定し、野草部門と共同した体制で活動を進めた。そして工芸部門においては、利用者様の活動を発信するため、日中活動で作製した組紐などの販売に力を入れ、働き甲斐のある施設づくりに取り組んだ。

2. 福祉事業活動

本年度は、1名の方が介護保険サービスへの移行により3月に退所されたが、処遇改善等加算の増収により、事業収益については、昨年度の障害福祉等サービス事業収益231,139千円に対し 236,762千円と、5,468千円の増収となった。なお本年度は、次年度に向けたキャリアパスに準ずる処遇改善等加算の配分の検討を進めたが、年度末に対象職員に対して特別一時金を支給をしている。

3. 日中事業活動

本年度は、しいたけ栽培の生産性向上により農産部門の売り上げ増に繋がったが、園芸部門においては、海水さつまいもの生産量は計画通りにいかなかった。しかしイベントへの参加を行い、就労支援事業収益は18,136千円となった。昨年度より増収となっているものの、原材料や燃料費の高騰により、利用者様へ3月の賞与を支給することができず、月額平均工賃も、一人当月平均7,348円と昨年度比1,058円の減額となった。部門別の収入実績については、下記のとおりである。

	2024年度 (千円)	2023年度 (千円)	差額 (千円)	前年度比 (%)
農産部門収入	16,272	13,114	3,158	124.1
園芸部門収入	2,933	4,485	▲1,552	66.7
野草部門収入	1,262	1,184	78	106.6
工芸部門収入	225	205	20	109.8
その他収入	291	—	291	—
合 計	20,983	18,988	1,995	106.5
一人当月工賃	(円/月) 7,348	(円/月) 8,406	▲1,058	87.4

4. 相談支援事業

本年度は、行政からの相談により新たな在宅利用者の支援に取り組んだ。また法人事業所の利用者様においては、利用者様や家族様の個々の希望や思いを受け止めながら、介護保険サービスへの移行を進めるなど、必要とされる支援の橋渡しに取り組んだ。また身寄りがなく、成年後見人制度の利用が必要と思われる利用者様に対しては、行政や関係機関と連携をとりながら、申請に関するサポートも行うことができた。なお本年度より車両の導入を行うことができた。

2024年度 白石作業所 事業実績報告書

1. 総括事項

(1) 施設運営について

- (イ) 2024年度は、報酬改正が行われ介護報酬単価が人員配置基準「7:5:1」から「6:1」の手厚い支援体制に変更し、介護報酬単価の増額により訓練等給負収入が増収となりました。
- 「道の駅しろいし」との業務委託契約による施設外就労や白石町のふるさと納税返礼品の受注により就労事業については、昨年度より増収となった。
- 又、様々な運営努力を重ねながら厳しい経済状況を打破し、就労継続支援B型事業所としての存在意義を高めて、地域に開かれた施設としての取り組みと地域と共存できる施設づくりができた。また、明るく元氣よく働き甲斐のある施設づくりに全職員一丸となって取り組んだ。そうした中で、今年も利用者様が自ら地域での販売活動等を通してご支援をいただいた皆様に支えられながら、地域とともに就労の喜びと生き甲斐をもって作業に従事し、円滑に施設運営を進めることができた。
- (ロ) 利用者様の処遇に関しては、「明るく楽しく」をモットーに、就業中における事故等の防止に努め作業の安全が守られるように、職員の意識向上の啓発に努めながら労働安全衛生管理の徹底に取り組んだ。又、利用者様と施設の安心・安全確保のため通報システムや災害時に即座に対応できるように職員研修等も行い、施設の保安管理を進めた。
- (ハ) 職員の資質向上については、個々人の研鑽と意識改革の喚起を促すために各種研修会の参加を計画し、Web研修会等の参加により職員の資質向上に努めた。又、法人で定めるキャリアパス要件に準拠した働き方改革と職員の処遇改善手当等の増額など大きな改善に努めた。

(2) 施設利用者様の豊かな人格形成

佐賀西部コロニー 3施設合同によるイベントは、全日本カブト虫相撲大会、収穫祭は開催したがその他は各施設で独自に行い、利用者処遇向上のために様々な活動を進めた。白石作業所では夏休みの「武雄宇宙科学館」での販売や各種イベントへの参加、年末の「歳末セール海水みかん祭り」施設毎に行った日帰りバス旅行や定期的な食事会と映画鑑賞会等の余暇利用により、社会との交流の喜びを習得できるような事業の実施に努めた。

(3) 働き甲斐のある施設づくり

法人運営理念の『互譲互助』精神と『心にゆとり 身体に余裕 みんなで作ろう 楽しい職場』を1年の目標として、挨拶が響きあう明るい職場作りに努め、創意工夫を重ねながら、より効率的な作業体制を作り、安全で快適な働き甲斐のある施設づくりに努めた。

又、利用者様で作る互助会会議を毎月1日に開催して、自分達の意見で話し合いながら1ヶ月の目標を立て、皆さんが協力し合いながら明るく楽しい施設づくりに努めた。

2. 福祉事業活動

本年度の障害福祉サービス事業収入は、65,111千円となり利用者様の1名の退所や病気等による出勤日数の減少があったが、介護報酬単価増収により1,764千円の増収となる決算となった。

利用者様の利用状況については、11月に1名退所者があり、定員30名、現員30名で推移した。職員については、6月1名 1月1名 計2名の退職者と8月1名 10月1名 2月1名の新規採用となり、基準上の職員配置内であり、適切な施設運営を行うことができた。

3. 就労事業活動

本年度の就労事業収入は 38,190千円 となり、経済活動が活発化した中で物価高騰等があったが、菓子、園芸収入が増収し 前年度に対し 4,001千円 の増収となった。道の駅等の直売所の売上げが好調で、佐賀県からの物価高騰対応支援金等を活用して工賃の確保に努めた。工賃については、目標工賃の達成を利用者様・職員が一体となって取り組み、2024年度は 一人当り月平均30,090円となり、前年度の 27,444円 に対して 2,646円の増額となり、今年度の目標工賃「1人当たり月平均27,800円」を達成することができた。

部門別の実績については、下記のとおりである。

年 度		2024年度	2023年度	差額	前年度比
部 門		(円)	(円)	(円)	(%)
農 産 収 入	アイス収入	5,710,875	5,782,745	▲ 71,870	115.5
	園芸収入	5,412,327	3,759,784	1,652,543	
	菓子収入	8,679,067	7,346,072	1,332,995	
	加工収入	2,837,340	2,682,965	154,375	
	こんにゃく収入	2,313,300	2,027,425	285,875	
	小計	24,952,909	21,598,991	3,353,918	115.5
販売収入		13,237,333	12,590,234	647,099	105.1
合 計		38,190,242	34,189,225	4,001,017	111.7
1人当り工賃		(円・月) 30,090	(円・月) 27,444	(円・月) 2,646	109.6